科目名			担当教員	
精神保健福祉援助実習指導Ｂ			小野　芳秀　ほか	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
CX5189	1	1	SR（講義）	4 年以上
履修登録条件		「精保演習Ａ・Ｂ」「精保実習指導Ａ」「精保実習Ａ」をすでに履修登録済みで、「精保演習Ｃ」と「精保実習Ｂ」を同時に履修登録する方のみが履修登録できます。 ※その他、履修の前提科目は、『学習の手引き』３章を参照ください。		
生成 AI 利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※社会福祉学科で精神保健福祉士国家試験受験資格取得希望者に対して開設されている科目です。

※「精保実習指導 B」のスクーリングを欠席した場合、「精保実習 B」は受講できなくなります。

※実習受講者のスクーリングは、「精保演習 C」との組み合わせによる同時受講が必須です。

※今後の見直しなどにより、ここに記載の内容を変更する場合があります。詳しくは『With』などでご案内します。

※実習免除者は受講不要です。

※本科目の開講形態は、本冊子「精保演習 C」「■演習・実習指導のコマ数と組み合わせ・開講の流れ」を参照ください。

科目の概要

■科目の内容

精神保健福祉士として必要な具体的かつ実践的な専門技術などの習得を図ることを目的とします。また、併せて精神保健福祉援助実習の意義について理解をするとともに、地域精神保健福祉活動における実習分野（利用者理解を含む）と精神科医療機関に関する基本的な知識を理解することを目的とします。

精神科医療機関実習に向け、これまでの学びを体系的に整理し、自分の課題を明確にできるよう、事前学習にしっかりと取り組んでからスクーリングに臨んでください。

■到達目標

①精保実習 B 受講前

１）精神科医療機関の役割について説明できる。

２）実習先を理解して説明できる。

３）対象となる患者の病気を理解して説明できる。

４）実習計画（案）が立てられる。

②精保実習 B 受講後

１）精神保健福祉士の役割について説明できる。

２）精神保健福祉士に求められているもの、必要とされているものについて整理して他者へ伝えることができる。

３）自己の特性についての自己覚知ができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人と社会の理解力」「俯瞰的な分析力」「倫理的実践力」「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目の評価基準

演習内容（50%）＋ 実習事後課題レポート（15%）＋実習記録（15%）＋実習評価（20%）

※評価は総合的に行い、グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求める。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していく。

■教科書・参考図書

【教科書】（「精保実習指導 A」「精保実習 A・B」と共通）

１ ）精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『精神保健福祉士養成セミナー8 精神保健福祉援助実習指導・現場実習〈第 6 版〉』へるす出版、2017 年（改訂新版でも可）

２ ）『精神保健福祉援助実習 B 課題ノート』

３ ）その他、補助教材（必要に応じ適宜配付）

※ ２ ）３ ）は「精保実習指導 B」受講対象者ならびに「精保演習 C（実習免除者）」受講対象者に別途配付。

（最近の教科書変更時期）2017 年 4 月

※ １ ）は「精保実習指導Ａ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

（スクーリング時の教科書）資料配付・提示のほかに、上記教科書を使用する場合があります。

【参考図書】

１ ）一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟『最新 精神保健福祉士養成講座 8　ソーシャルワーク実習指導　ソーシャルワーク実習［精神専門］）』中央法規出版、2021 年

２ ）福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉士シリーズ 11　精神保健福祉援助実習〈第 2 版〉』弘文堂、2018 年

スクーリング

■スクーリング受講条件

【実習受講者】「精保演習Ｃ－2＋実習指導Ｂ－2」（実習Ｂ事後指導）スクーリング

※最新の受講条件は、学生専用『ポータルサイト』または申込時の『With』でご確認ください。

①受講 1 カ月前の指定期日までに達成

・「精神保健福祉援助実習指導 B」1 単位め（レポート課題 3）の提出

②受講当日に提出

・『精神保健福祉援助実習 B 課題ノート』

■スクーリングで学んでほしいこと

①精保実習Ｂ受講前

医療機関実習に向けて課題を整理するため、事前に実習先について理解を深め、精神科病院のワーカーの役割を理解ができるよう、これまでの学習を体系的に整理してほしい。

②精保実習Ｂ受講後

実習を客観的に振り返り、自分の課題が整理できるように他者からの評価を踏まえ、自己覚知に取り組んでほしい。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーション	精神保健医療福祉の現状の基本的理解
2	実習の準備①	「実習計画（案）」の作成と精神科医療機関の基本的理解ならびに必要とされる専門的知識と技術に関する理解
3	実習の準備②	精神疾患と患者の理解
4	実習課題の整理①	精神科医療機関における精神保健福祉士の役割の実際について整理
5	実習課題の整理②	入院から地域移行・地域支援の実際について実習での体験を踏まえて整理
6	実習課題の整理③	実習記録・評価表による振返り指導
7	実習課題の整理④	対人援助職としての適性などの自己評価・自己覚知
8	実習課題の整理⑤	精神保健福祉援助実習の総括

※実際のスクーリングでは「精保演習Ｃ」と「精保実習指導Ｂ」を組み合わせて開講する（本冊子「精保演習Ｃ」「■演習・実習指導のコマ数と組み合わせ・開講の流れ」参照）。

※担当教員により上記各コマの内容および「精保演習Ｃ」と組み合わせるテーマが異なる場合がある。

■講義の進め方

演習はグループワーク中心に展開し、必要に応じて板書やＩＣＴの活用、資料配付などを行う。

■スクーリング　評価基準

演習内容（50%）＋実習事後課題レポート（15%）＋実習記録（15%）＋実習評価（20%）

※評価は総合的に行い、グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求める。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していく。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

【実習受講者】

次項「■在宅学習 15 のポイント」から予習しておくこと（前項「■講義内容」の各テーマに対応する「■在宅学習 15 のポイント」は次表を参照）。

テーマ	「在宅学習 15 のポイント」（回）	テーマ	「在宅学習 15 のポイント」（回）
1 ）	－	5 ）	－
2 ）	－	6 ）	－
3 ）	－	7 ）	8・11
4 ）	12・13	8 ）	－

※本冊子「精保演習Ｃ」■スクーリング事前学習参照。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25 時間）

※本冊子「精保演習Ｃ」■スクーリング事後学習参照。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	精神保健福祉援助実習の意義と特徴 (基礎編　第１章Ⅰ～Ⅳ)	「精保実習Ａ」での体験を踏まえ、改めて実習の意義とねらいについて理解する。実習の意義や養成校としての大学と実習機関との役割分担について理解する。 キーワード：職業倫理、守秘義務、地域生活支援、権利擁護、チームアプローチ、アウトリーチ、ネットワーキング	教科書の“「精神保健福祉援助実習指導」のねらいと含まれるべき事項 ” を読み「実習指導のねらい」について理解する。
2	実習の学習内容と基本的な流れ (基礎編　第２章Ⅰ・Ⅱ)	「精保実習Ａ」での体験・学びを踏まえ、医療機関実習における学習内容と実習の基本的な流れについて理解する。 キーワード：生活の質（QOL）、人と状況の全体性、生活者支援の視点	実習現場において学ぶ、クライエント、施設・機関、生活問題、支援の過程についての知識と経験について理解する。
3	実習の準備と事前学習 (基礎編　第３章Ⅰ・Ⅱ)	「精保実習Ａ」での体験を踏まえ、医療機関実習の事前準備としてどのようなことが求められるのかを理解する。 キーワード：地域移行支援、措置入院、医療保護入院、チーム医療	「精保実習Ｂ」の事前準備については本学独自に『精神保健福祉援助実習Ｂ課題ノート』の所定の範囲の学習、ならびに「実習計画（案）」の作成などが課せられている。一般的な実習の事前準備と流れについては教科書から理解しておく。
4	事前学習の意義と目的・内容・方法 (基礎編　第３章Ⅲ～Ⅴ)	特に医療機関における実習を想定し、事前学習の意義と目的・内容・方法について理解する。 キーワード：生活のしづらさ、社会的入院、言語化と応答性、父性的保護主義（パターナリズム）、リカバリー、クライエントの自己決定の原理、自己覚知、倫理綱領、地域移行支援、地域定着支援、守秘義務	「精保実習Ａ」の成果を踏まえ、実習において求められるスキル（言語化、記録、コミュニケーション、実習生としての立場の理解・自覚）について改めて認識を深める。教科書の「日本精神保健福祉士協会倫理綱領（称）」についても再度内容を理解する。
5	事前準備・リスクマネジメント (基礎編　第４章)	「精保実習Ａ」を踏まえ、改めて実習におけるリスクマネジメントについて理解する。 キーワード：実習プログラム、バウンダリー	「精保実習Ａ」での経験を踏まえながら、教科書のＱ＆Ａから実習Ｂにおけるリスクについてイメージする。
6	実習の具体的展開・実習指導者・実習担当教員の役割 (基礎編　第５章Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)	「精保実習Ａ」での体験を踏まえ、実習の内容を振り返りながら、実習指導者・実習担当教員の役割について改めて理解する。 キーワード：事前オリエンテーション、陪席、実習スーパービジョン、実習指導者：実習プログラムの作成、実習担当教員：実習指導者との協議	「精保実習Ａ」での経験を踏まえながら、教科書の「2 配属実習における具体的行動」、実習における実習指導者および実習担当教員の役割を理解する。

7	実習の留意事項・学習過程 (基礎編　第５章Ⅳ～Ⅴ)	「精保実習Ａ」での経験を踏まえながら、実習の留意事項・学習過程について改めて理解を深める。 キーワード：社会常識とコミュニケーション、自己点検、四者関係	「精保実習Ａ」での経験を踏まえながら、教科書「Ａ　実習生が守るべき心得」、「Ｂ実習指導者が留意すべき事項」、「Ｃ　実習担当教員が留意すべき事項」、「Ａ　実習生の準備状況」について理解する。
8	巡回指導教員によるスーパービジョン、実習記録の指導、実習スーパービジョン (基礎編　第５章Ⅵ～Ⅷ)	「精保実習Ａ」での経験を踏まえながら、巡回指導教員によるスーパービジョン、実習記録の指導、実習スーパービジョンについて理解する。 キーワード：巡回指導、自己覚知、スーパービジョン	「精保実習Ａ」での経験を踏まえながら、教科書を読み、実習中に係る指導者の指導がどのような内容・目的で行われるのか理解する。
9	実習事後学習の具体的展開と実習評価の意味と方法 (基礎編　第６章Ⅰ)	「精保実習Ａ」での経験を踏まえながら、実習事後学習の具体的展開と実習評価の意味と方法について理解する。 キーワード：自己評価	「精保実習Ａ」での経験を踏まえながら、教科書の「図 6-1 実習事後学習の具体的な展開」について改めて理解する。
10	実習評価の意味と方法 (基礎編　第６章Ⅱ～Ⅳ)	「精保実習Ａ」での経験を踏まえながら、実習評価の意義と目的および内容と方法について理解する。 キーワード：評価	「精保実習Ａ」での経験を踏まえながら、教科書の評価内容について改めて理解する。
11	実習評価ならびに実習の各過程における評価について (基礎編　第７章Ⅰ～Ⅴ)	「精保実習Ａ」での評価を踏まえ、実習の各過程における評価ならびに実習評価について理解する。 キーワード：事前評価	教科書の実習に係る各立場における評価について理解する。本学で実際に使用している『評価表』と内容は異なるが、参考として教科書の評価表などから何について評価されるのか内容を改めて確認しておくこと。
12	実習施設・機関の目的・機能と役割 (実践編　第８章Ⅰ)	実習施設・機関の目的・機能と役割について理解する。 キーワード：精神科病院、精神科診療所	教科書のうち、特に「精神保健福祉援助実習Ｂ」の実習機関である医療機関（精神科病院・精神科を標榜している病院・診療所）についてしっかりおさえておくこと。
13	主な実習経験と課題① (実践編　第９章Ⅰ・Ⅱ)	入院時または急性期、退院時または地域移行・地域支援に向けた患者および家族への相談援助について理解する。 キーワード：精神保健福祉法、守秘義務、ソーシャルサポート・ネットワーク、チーム医療	教科書の内容をしっかりおさえる。入院から地域移行・地域支援までの一連の流れの中での相談援助のあり方について理解を深めること。

14	主な実習経験と課題② (実践編　第 9 章Ⅳ～Ⅶ)	「精保実習Ａ」での経験を踏まえながら、改めて精神医療福祉における多職種連携とチームアプローチ、精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務、アウトリーチと地域ネットワークについて理解する。 キーワード：多職種連携、チームアプローチ、カンファレンス、ケア会議、連携調整機能、職業倫理、倫理綱領、秘密保持、ケアマネジメント、包括型地域生活支援（ＡＣＴ)、権利擁護者、秘匿権、チームケア、ピアサポーター、アウトリーチ（訪問)、社会資源	教科書の用語を理解した上で、教科書の事例から当事者参加の地域福祉計画作成について改めて整理する。
15	実習指導計画モデル (実践編　第 10 章)	精神科医療機関における実習計画について理解する。 キーワード:生活のしづらさ、チーム医療、精神保健指定医、強制入院、退院制限、隔離、身体抑制、行動制限、自己覚知	教科書の内容をしっかりおさえる。なお本学では保健所における実習は当面実施されない。教科書の「実習プログラム例」を参照に医療機関における実習の展開をイメージできるようにしておくこと。

■レポート課題

課題１	**「精保実習指導Ｂ−1」スクーリング受講前の課題** ①「精保実習Ｂ計画（案)」を Word データで作成し、精保実習係（psw@tfu.ac.jp）宛にメール送信してください（提出締切日は、申込時の『With』または『試験・スクーリング情報ブック』を参照ください)。 **（提出方法）** ・Word データは、実習受講前年度に申込みを行い、当該年度１月末までに実習受講条件を達成した方へ、個別にメールにて送信いたします。 ・メール提出の際は、件名「精保実習Ｂ計画（案)」と本文に学籍番号・氏名を明記してください。 ②『精神保健福祉援助実習Ｂ課題ノート』の「事前学習について」の部分をすべて完成（「事前訪問までの準備」の部分は記入できる範囲で記入）させ、スクーリング時に持参し提出する。
課題２	**「精保実習指導Ｂ−1」スクーリング受講後の課題** ①実習先に事前訪問を行い、実習指導者より「精保実習 Ｂ 計画（案)」の内容について確認を得た後、「精保実習Ｂ計画書（清書用)」を完成させ、精保実習係（psw@tfu.ac.jp）宛にメール提出する。 ②実習先への事前訪問後、『精神保健福祉援助実習Ｂ課題ノート』の「事前訪問までの準備」の部分を完成させる。 ③実習先への依頼状＝個々人で実習生として指導していただくことへの感謝とお願いの気持ちを込めて、実習先へ実習開始２週間前頃に依頼状（封書）を出す。
課題３	**「精保実習指導Ｂ−2」スクーリング受講前の課題** 事後学習は、援助実習での自己の振り返りを行い、自己評価とあらたな課題設定に向けて、一定の整理を行うものです。下記に沿い課題にあたってください。 ①実習終了後、速やかに実習先へ御礼状（封書）を出す。

	②「精保実習Ｂ事後レポート（科目名：「精保実習指導Ｂ」１単位め）」：4,000 字程度を作成し、所定の提出締切日までに提出してください（提出締切日は、申込時の『With』または『試験・スクーリング情報ブック』を参照ください）。レポートにまとめる内容は下記 1）～ 4）のとおり。 １）実習を終えての全体的感想 ２）実習前と実習後の精神保健福祉現場についての印象の変化 ３）設定した課題の評価や自分のあらたな課題 ４）実習を通して知りえた自分自身の評価も含めながら現場実習の成果と評価 実習で学んだことを分析・考察する内容であることが望ましく、単なる感想のみにならないように留意すること。 ※『実習記録』は、実習終了時に実習先に提出し、実習先から「実習出席簿」「実習評価表」と一緒に大学へ返送される。「精保実習 B 事後レポート」作成のため、実習先に提出する前に自分用の『実習記録』のコピーをとっておくこと。 ※通常のレポート提出台紙で提出する。手書き用・パソコン用どちらでも可。 ③『精神保健福祉援助実習Ｂ課題ノート』のすべての課題を完成させる。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【課題１・２アドバイス】

『精神保健福祉援助実習Ｂ課題ノート』に示す事前学習課題は、実習生として最低限踏まえておくべき内容です。「事前訪問までの準備」の部分は、各自で文献などにより調べ、施設機関などの依拠する法律、施設機関の組織や機能、社会資源の関連法規などについて学び、事前指導スクーリングまでに整理してください。十分な準備によってまとめられた資料は、必ず実習期間中に役立つものとなります。

それぞれの関心領域に基づき積極的に学ぼうとする姿勢が実習には重要です。「実習計画（案）」の作成は学び方を客観的にまとめる作業ですので、何を学びたいのか、そのためにどう取り組みたいのかという視点で立案してください。その際、実習指導者が決まっている場合、指導者と相談しながら計画を練ることもとても有効です。

実習の受入機関は多忙な業務を割いて指導してくださることを忘れないでください。それに応えられるだけの成果を得るような事前の準備を心がけてください。

【課題３アドバイス】

実習後、事後指導スクーリング前の課題は、実習体験やご自身の専門職としての適性を含めた十分な振り返りを行い、レポートにまとめてください。特に、専門職としての適性については慎重にご自身を見つめ直してください。実習の目標課題の達成度を含め、実習で得た内容を、自分の実習計画に即しながらまとめてください。